

東京文理本部
研究室
部内

鹿林省の行つた部族調査について

內山政熙

農林省では来年の昭和三十一年三月を期して、全國にわたりて部若調査の正式には「農業集

著」と称して「これをもとににして東センサス調査を行つ」とになり、現在既に調査が進行中である。「これは、従来の調査センサスが個々の農家をとらえて来たのに対し、始めて部若そのものをとらえて、農業構造をより立体的組織的に明らかにしようとする点で、定期的な企画であり、また同時にその成果と手続とは、われべ村著社会研究者にとって最大の関心を呼ぶものであろう。全国村落のセンサス的データは、これによつて始めて明らかにされるるチャンスに恵まれたからである。以下、「」の調査について、直接われべに農業のある点を概要説明して、諸兄の御参考

その区域が拡大されるので、町村一本の統計では、一そく利用価値が減じてしまう。したがつて、この際将来行うべき農業統計調査の合理的な抽出単位として役立つべき調査区を設定しておき、原則としては部落をその単位にしておけば、前述の如き農業構造の解明のために適当ではなかり、というわけである。

第三に、は、農業生産に深い関係をもつ農業協同体としての農業集落の役割を知るためである。山・水・耕地・農具・勞働・生活慣行などを共同にする部屋（農業集落）を調べることと、農家個々の農業經營に協同している農業協同体の諸事項を統計的数量的に明らかにすると同時に、個々の農業

査して、農業構造を総合的に把握しようとする。ところが、どうも、行政村をとつてそれを単位に統計の集計をしてしまって、従来の方式によると、各部落による農業構造の相違が相殺されてしまい、その平均数字は何れの部落の農業構造も表現しなくなってしまう結果になる。この結果ある地域の農業構造に即応して整備されるべき開拓のためには、データは段々に立ち替へなる。

發展のため」といふ見地を置いておつゝ。その限り村落それ自体に焦点を合わせてはこないけれども、逆に言えば「農業生産」という決定的な座標軸を確定する「 β 」、「 γ 」によつて、村落の社会的な性格も鮮やかに(一定の視角からではあるが)浮き彫りされる可能性もある。しかし、これはこの調査の算計上の具体的操作如何にかわり、それによつて、われ々の期待も十分達せられなくなつた心配はあるけれども。

(2) 農業集落の確定――いわゆる「いかなるもの
を離けるために農業聚落と云ふ」とは、用
いて云ふ事である。つまり、「部落と互
何をや」と云う趣向に打つかる。一おう調
査では、「農家が農業上相互に最も密接に
共通し合つてゐる農業集団」ときめて云ふ
が、これを全国一皆は基準で素人でさうある
具体的項目手続書を通じて確定しようとい
うのであるから凡そ至難の業に屬する。
調査ではこの点次のようにして云ふが、
これについては数多くの異論が予想される
のである。

「各種の集団、例えば大字小字行政部署
部落実行組合、その他の各種農業集団本部等」

(イ)目的——従来は個々の農家を調査してきたが、今回は農家相互の共同的関係を併せ調査したいと思つ。

収穫の割取条件となつてゐる農業銀行、生活動行を明らかにするにともなる。

以上のように、(イ)の調査は農業生产力の

正しいやり方」があるが、「これを最も簡単

に決める方法として、部落実行組合、行政部若を用意として、これに全国共通の三つ

の井同化の指標——①共同林野の利用範囲
②農道と用水路などの賦役の範囲 ③森林の
のはあいの野辺送りの範囲 ④その他の共同化の範囲——を裏附けデータとして、両者

を「総合判定」して農業集落を決める。予想される困難は、今日の部落の特殊な特長は、ノウしたまぐの生産生活關係が分化、拡大し、他部落とも關係し合つて

いるという事実のなかにあるが、こうした点についてこの「総合判定」がいかなる意味で判定するかは、必ずしも明じかではない。

この点具体的に現在どう調査が進行しているか、を配慮して気をつけておじいていたべき度である。

(3) 市区町村地図の作成——農業集落の範囲がとにかく決まる上、この農業集落が市町村のどこにあるか、どこからどこまでか、などを見定すために市区町村地図をつくる。これには耕地山林、集落の形や主要田畠などを記入することになつた。

(4) 調査区の設定と調査区地図の作成——農業集落毎に調査区を二つ以上設けるときには調査区毎に、地図を作つて、農業集落及び名称、調査区界及調査区番号、隣接調査区の番号、世帯の位置を明示

するに必要な河川、湖沼、橋、道路、鉄路、建物(名前)など、全世界の位置とさの番号を記入する。

概略は以上の通りであるが、くわしいことは農省統計調査部統計課、或いは各地方の統計調査事務所に照会せられ度い。なお、この概要を熟考した際主として参考にしたのは農林省編「農業集落の決定ならびに調査区設定手引」(昭和十九年八月刊)である。

提案と註文

生田清

「農地改革と農民運動」というもつとも実感的な講演をもつて集りながら、自然的な論議も交されず、また将来の動向という実感な見通しへの発言も少なかつたことは、残念である。これには耕地山林、集落の形や主要田畠などを記入することになつた。

次に、来年の課題については結局まとまらなかつたようですが、やつぱりできるだけテレマはしほつた方がよいと思ひます。かなりしほつても、たゞ早く決定發表さえしてもらえば何とか皆が参加する体勢がよとのえらばれのではないでしょうか。その意味で、あらためて、私は山林地主あるいは山林社会の席上おなり有力だった部著共同体はまだテーマとして広範にすぎないようす。ここにあらためて、私は山林地主あるいは山林社会の満足の研究を提唱します。前者は農地改革後より外の農業団体の指導理論家の出席を願つて、もうと実践そのものから汲みとられた意見も反映させてよいのではないかと思ひます。最初から病でもないテーマをそらんだものだ、という感じでした。しかし、年報はなるべく早く出してほしいし、表書きも第一集に比べて決して落ちることはないと確信します。何があると思うのです。いずれにしても決定の

発表を可及的早くお願いします。

最後に「村研通信」についての社説。

一、関係新刊書のバックレットを毎月のせ
て下さい。

二、各会員の研究業績を発表方法（雑誌名等）

とともに半年毎にまとめて報告願い、それ
を載せて貰えたら、会員間の連絡、研究
交換に非常に便利です。

以上（たゞ）申し述べて恐縮ですが、大会
の感想と意見を思いつきましたので書いてみまし
た。話題にしていただければ幸いです。

年報第一集について

十一月二十四日夜、事務局及び通信連絡委
員会が会合して、総会における決定にもとづ
き、「年報第一集」と各会員について左記の
如く協議し試案を作りました。

これらにつじかへもしよろしければ御採
承を仰ぐたいと存じますが、もとより完全とは
思ひませんのでしょく御提案を下さるよう
お願い致します。

（当日出席者　有岡、中野、森岡、内山、

福武、塚本、北川、松原）

なお、年報第一集に載録を決定した論文は、

昨年度大会および本年度大会に報告された方
々のうちから、主題にそぐわなかったらずし
た。また、村落研究の動向は三部に分け、第
序に於て八十名以上叢書として

一は、総括で、農園計画にもとづいてこれを
書き、その原稿にしたがって、それと異
な二つの観点から動向の分析をしていただき
ることとしたします。

二は、総括で、農園計画にもとづいてこれを
書き、その原稿にしたがって、それと異
な二つの観点から動向の分析をしていただき
ることとしたします。

年報第一集「農地改革と農民運動」

一、農地改革と農村運動

1. 題未定 木下 駿・管野俊作（六〇）
2. 高倉又二（六〇）
3. 後藤和夫・神谷 力（六〇）
4. 大内 力（六〇）

5. 塚本哲人・松原治郎（六〇）
6. 生田 滉（六〇）
7. 農民運動研究——成果と課題——
（船谷赳夫・内山政照）（六〇）

1. 動向総観 未 定（六〇）
2. 甲田和衛・山本 登（六〇）
3. 西田春彦（六〇）
（内訳）
① 収 入 計
（名賃売上高）
（内訳）
会費收入
切手引換收入
無期限借入金
六〇〇〇
一一三三一〇
一〇九七
一一五
（内訳）
② 支 出
（内訳）
年報編集連絡費
NO.7-12年報連絡印刷費
八二五〇
局上発送費
八八六八
口座番号ゴム印代
三四五
四三四三
一一三一六
（内訳）
年報編集連絡費
大会返信用紙買入費
三四五
一三〇
（内訳）
大会返信用紙買入費
一千及び
大会開催郵便連絡費
一四〇〇

塚本、松原　農業の村における農民運動
と農地改革
農民運動と村落社会の構造
農民の社会的性格と農民運動

の研究報告があり、午後三時より活潑な共同
討議（福武直司会）を行ない盛會裡に終始し
た。

次に大会における会計報告と大会会計報告
を掲載致します。

第一回大会における報告された会計報告

昭和二八年一〇月九日（第一回大会報告
以後）より一九二九年一〇月二三日（第二
回大会直前）まで

◎第一回大会報告時の差引残高
一九七〇
（内訳）
（一）取 入
（内訳）
会費收入
切手引換收入
無期限借入金
六〇〇〇
一一三三一〇
一〇九七
一一五
（内訳）
（二）支 出
（内訳）
年報編集連絡費
NO.7-12年報連絡印刷費
八二五〇
局上発送費
八八六八
口座番号ゴム印代
三四五
四三四三
一一三一六
（内訳）
年報編集連絡費
大会返信用紙買入費
一千及び
大会開催郵便連絡費
一四〇〇

本研第二回大会は十月十八日、東京教育大

学校に於て八十名以上叢書として
（内訳）
年報編集連絡費
大会返信用紙買入費
一千及び
大会開催郵便連絡費
一四〇〇

